



No. 58
2019 Winter

山 松 舎
臨 南 寺

特集

けいざん ぜん じ
瑩山 禅師ものがたり ③



六歳で観音さまの啓示を受け
八歳で出家を決意されました

お父さまの反対にあう

瑩山さまは幼いころからお母さまの影
響で観音さまの信仰に目覚めます。六歳
の頃、観音堂でお経を唱えている瑩山さま
の前に観音さまが現れて「世のため人のた
め、お坊さんになりなさい」と告げられて
お坊さんになることを観音さまに誓ったの
です。

八歳になった瑩山さまは、お母さまに打
ち明けます。

「母上、私はお坊さんになりたいのです。ど
うか立派なお寺に行かせてください」

お母さまからその願いを聞いたお父さ
まは、大変驚き怒り出してしまいます。幼

いころから「神童」と呼ばれる瑩山さまの
利発さを喜び、友人たちに自慢していたお
父さまは、瑩山さまは瓜生家を継ぐもの
だと心に決めていたのです。

「瓜生家を継ぐのがお前の定め、出家など
もつてのほかじゃ」

お父さまの猛烈な反対にあいました。

断食作戦を敢行

そこで瑩山さまが取られたのは、断食作
戦でした。

「お坊さんになることを許してくださいさるま
では、食事を一切とりません」

そうご両親に宣言したのです。

「お腹が空いたでしょう。さあ温かいうち
にお上がり」

お母さまに勧められても

「食へたくありません」

瑩山さまはそっぽを向いて箸にさえ手を

付けようとしません。

一日目が過ぎ、二日目も過ぎてても、瑩山

さまの決意は固く、お母さまの優しさも、

お父さまの説得も、瑩山さまの心を溶か

すことはできません。

瑩山さまの断食は三日目を迎えました。

ふつらとしていた頬も少しこげ、目ばか

りギョロギョロと、持ち前の快活さが失われ

ていきました。

一粒種の変わり果てた姿に

そんな瑩山さまの衰弱ぶりを目にして、
ご両親も困り果ててしまいました。

三日目の夜、お母さまはお父さまに相
談します。

「あの子の体が心配です。あの子の望みを

かなえてやりませんか」

「そうじゃの。お寺の修行はきついや言う
から、音をあげて帰って来るやもしれぬ。い
つたん認めてやることにするか」

愛する一粒種の息子の体を心配したご
両親は、しぶしぶながら瑩山さまがお坊
さんになることを認められたのです。

こうして瑩山さまの断食作戦は見事に
成功し、望み通りお坊さんへの道は開けた
のです。しかし、問題は「どちらのお寺に
行くのか?」です。

おばあさまの明智さま

お母さまは、瑩山さまの祖母にあたる
明智さまに、「どちらのお寺に行かせるの
が一番いいのか」お寺選びを相談しました。

明智さまは出家こそなさっていませんが、
道元禅師が中国から悟りを得られて帰国
されたときに、すぐにお訪ねになって、最
初の女性の弟子になられたお方です。

「それなら永平寺以外考えられません。わ
たくしが入門の道筋をつけてあげましょ
う」

瑩山さまは、道元禅師さま亡き後の永
平寺に明智さまのお導きであることに
なるのですが、そのお話は次回といたしま
しょう。

桃色は弁天様のはちすかな 正岡子規

令和になって初めての 福を授かりませんか？

平成から令和へ、時代が変わって新しい年がやって来ます。臨南寺では二月十五日午前十時から本堂で弁財天祈祷会を修行いたします。

弁財天様は七福神の二人。音楽の才能はぐくみ、雄弁と智慧を授け、芸能や学問で成功に導き、金運や財運をもたらすと伝えられています。

臨南寺の弁財天様は、かつて長居池の北之島にあった弁天堂を移したものです。古くから地域の守護神として信仰され、四年前に圓通閣の入口に再興いたしました。

弁財天祈祷会では、『大般若波羅蜜多經』六百巻を転読いたします。この経典は、唐時代の高僧玄奘三蔵がインドから中国へ持ち帰ったもの。大きな霊力を持つと言われています。

新しい年が安らかで穏やかであ

りますよう、また世界から戦争が

なくなり平和が訪れるよう、皆様とともに心を込めてお祈りいたしますよう。皆様の無病息災・家門隆盛・家内安全を願って、お礼、お守り、破魔矢をお授けいたします。

法要の前には護寺会の総代さんの挨拶があり、法要の後には温かい甘酒も用意しています。厄を払い福を招く弁財天祈祷会に、ご家族、お友達を誘い合わせてお参りください。



皆様の無病息災と家内安全をご祈念いたします

寺南景 百景



阿難陀様の

美しいお姿を ご覧ください

本堂にそびえる須弥壇の上から私たちを見守られているお釈迦様。その両脇に控えられているのが、お釈迦様の弟子のお二人、阿難陀様（左）と摩訶迦葉様。今回は阿難陀様をご紹介します。

阿難陀様はお釈迦様の侍者として、お釈迦様が涅槃に入るまでの二十五年間、つねにお釈迦様のそばにつきかえ、行動をともしていました。お釈迦様からじかに教えを聴いており、誰よりも教えを聴いた者「多聞第二」と呼ばれていました。



お顔も袈裟も美しくなった阿難陀様

お釈迦様の入滅後、摩訶迦葉様はお釈迦様の教えを經典にまとめる会議を開催します。悟りを開いた者だけが参加できるこの会議に、「多聞第二」の阿難陀様も出席を求められます。しかし、お釈迦様から直接教えを受けていたのに、悟りを開いていない阿難陀様。出席をためらい会議の前の晩まで思い悩みます。苦しみをぬいた夜も明けたその朝、ようやく悟りを開いて会議に出席することができたのです。

ところでお釈迦様は女性の出家を許していませんでした。阿難陀様はお釈迦様を粘り強く説得して女性の出家を認めさせます。尼僧教団の誕生は、阿難陀様の功績なのです。

住職
日誌

「文明の進化は人を 退化させる」

本年五月に今上天
皇陛下がご即位され、
平成の時代に幕が降り、
新元号令和の時代が
始まりました。

私の生まれた昭和

五十年代は、やととワープロが普及し始めた頃だったように記憶しています。それから四十年ほどの間に起こったさまざまな電子機器・携帯電話などの急速な進化には、正直なところ戸惑っています。

技術の著しい進歩により多岐にわたり便利な時代になつてきました。でも、便利な時代であるが故に忘れてはいけないものがあるような気がします。令和二年に控えているオリンピックを誘致する時に話題になった「おもてなし」の心や日本伝統の文化など、いろいろとあると思います。

また、文明の力に頼りすぎて私自身、漢字が思い出せなくなつていたり、約束の予定を忘れていたりと気を付けなければと考えています。修行時代に大本山總持寺の貫首に御着きになられていた板橋興宗禪師様のお言葉を思い出します。「文明の進化は人を退化させる」と。

それはさておき、新時代令和万歳
国土安穩 万邦和楽 諸縁吉祥 を祈念致します。



臨南寺 住職
大澤 正道

秋のマトリ合同法要

大迫力の和太鼓に感動

晴天に恵まれた十二月十日(日)。午後一時からがっしょう園マトリの合同法要が営まれました。春のマトリ合同法要に続き、三重県曹洞宗青年会の和太鼓集団「鼓司」による演奏が披露されました。

春は紫雲殿の中でしたが、今回の舞台は本堂の階段です。日本だけでなく中国、東南アジアなど海外にも和太鼓による布教活動を広げている「鼓司」のお坊さんたち。今回は七台の太鼓に一人ずつ、掛け声を上げながら太いバチを振り下ろします。太鼓の音が共鳴しながら腹に響き、心を揺さぶります。強い日差しを浴びながらの熱演。お坊さんたちの額から汗がしたたり落ちます。参加者百五十人からの拍手がしばらく鳴りやむことはありませんでした。



感動を巻き起こす「鼓司」の太鼓の響き

臨南寺行持予定 (一〜二月)

一月

○ 弁財天祈禱会 (本堂)
べんざいてんきとうえ
一月十五日 午前十時〜十時半

新年を迎えて最初の年頭法要です。新しい年がよい年になりますよう、皆様の厄を払い福を招く法要を修行します。温かい甘酒の振る舞いもございます。ご家族、お友達、誘い合わせでお参りください。

二月

○ 釈尊涅槃会 (本堂)
しよくそんねはんえ
二月十五日

お釈迦様の命日に、涅槃に入られるお釈迦様のお姿を描いた涅槃図を飾り、供養と感謝の法要を行います。



お気軽にご参加ください

早朝坐禅会

毎月第一土曜日(二月、八月は無し) 午前六時半〜本堂にて

写経会

毎月二十日(八月は無し) 午前十時〜午後三時
写経料・千円

*いずれも急ぎよ中止になる場合がありますので、前日に確認してください。

皆様、よろしくお願いいたします。

本年三月よりお勤めさ
せていただいております 左
近さゆりと申します。

私事ですが、一昨年母親を
看取り、昨年主人の母親を

看取りました。前職が、介護業界ということもあり、先
人の方々お一人おひとりの尊厳について学ばせていただき
ました。

また、命の尊さと先人の方々のお陰で、今日、日々平和
に暮らせていることに感謝しております。

お寺の仕事は、初めてで戸惑うことも多く、お寺様や
寺務所の方々にご指導いただきながら精進してまいりた
いと毎日おつとめています。

お寺には多くの方々がお参りに来られます。いろいろ
な想いを抱えながらこ来寺された方々に、少しでも寄り
添えるお仕事ができればと思っております。

皆さまにご迷惑をおかけしないように、そして「感謝」
の気持ちを忘れずに寺務業務につとめていく所存です。
どうぞよろしくお願い申し上げます。



左近さゆり

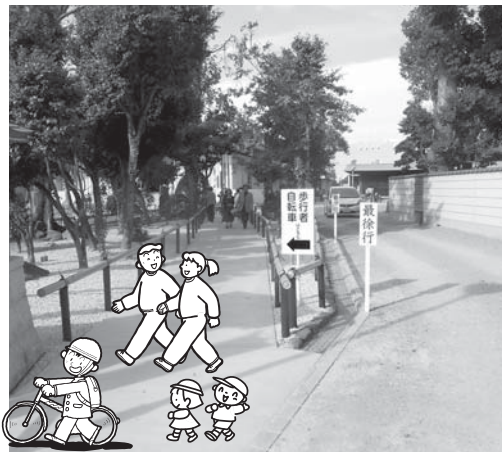
この道は、自転車もご利用ください

この歩道は、徒歩の方や車椅子の方だけでなく、自転車の方もご利用
いただけます。

数年前から当寺院の境内
で人身事故が発生しています。
境内での運転は最徐行でお
願います。

改善される様子が見られ
なければ、車両の乗り入れ
を禁止いたします。

なお、境内地内での事故
等につきましては、当寺院
では一切の責任を負いません。



年末年始の墓参の ゴミはコンテナに

年末年始の墓参で出たゴミは、コ
ンテナに入れてください。
墓参でのゴミ以外は投棄しないで
ください。ご家庭で出たゴミはご遠
慮ください。
墓苑を美しく清潔に保っていただ
きますようご協力をお願いします。

年末年始の臨南寺

- * 十二月三十一日～一月三日は、
寺務所を閉めさせていただきます。
- * 三が日の花の販売はございませ
ん。
- * 一月の早朝坐禅会はお休みさせ
ていただきます。
- * 開門は午前五時、閉門は午後
九時となっております。

編集後記

先日携帯電話をスマホに変え
ました。最初はかかってきた電話
に出られない、メールもどうしてい
いかわからない。ガラケーではス
ットできていたことが何もできない
のです。2週間たち、いろいろ教え
てもらってようやく便利さを楽しめ
るようになりました。(M)

「ほ～っと」58号

令和元年12月

編集・発行：稜伽林「ほ～っと」

編集室

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32

TEL 06-6698-1001

FAX 06-6697-3330

Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ：http://www.rinnanji.com